



「問い」を生み出す授業

学校長 村越 新

本年度本校は「**問いを生み出す子供の育成**」をテーマに校内研修に取り組んでいます。教科は国語と算数です。これまでの研修の成果を生かし、本年度もまずは我々教職員が主体的に学び、子供たちの主体性を伸ばしていこうという思いで取り組んでいます。

6月25日には**国語**、7月4日には**算数**で授業研究会を実施しました（いずれも六年生）。両授業で、埼玉大学附属小学校の先生に、ご指導をいただきましたので紹介させていただきます。

- ・子供の自主学習からスタートした、子供主体の授業である。
- ・子供の反応がよい。学級経営、学習規律等の土台ができている。
- ・学び合いで、自分も友達も大事にしている姿があった。
- ・黒板に出てくる子がいるなど、子供の学びがとても大事にされてる。
- ・一人ひとりが違うことが大事にされていた。個性が尊重されていた。
- ・子供同士が、友達の解決方法に驚きを示していた。
- ・子供たちが前向きに、前のめりに学んでいた
- ・「問い」を引き出すための、教師のゆさぶりもあった などなど

両授業ともに、扇っ子は**活発に学び合い**、思考を深めていました。そして「問い」が生まれました。中には、教師の言葉に対しても**疑問**を持つ子がいました。簡単に納得しない姿勢がどちらのクラスにも浸透していたようです。

ご指導でもいただいたように、**個の学び**がとても大事にされていました。一人で黙々と取り組む子もいましたが、悩んだときには友達を頼っていました。教科書を広げて考えている子もいました。P Cを取り出し計算の確かめをしている子もいました。黒板を使って互いの考えを戦わせている子たちもいました。誰一人、**学びから外れていない**のです。

そして一番誇らしく思うのは、この授業で学びが終わらないことです。生まれた「？」を自主学習で取り組んでくる子がいるのです。

今年の扇小は【**！＜？**】を大事にしています。



これまでの研修の経緯

【合言葉】

令和7年度 学問のススめ（真の学びは問いを生む）

- ・教師の役割は子供の「問い」を引き出すこと
- ・学びから「問い」を生み出す子供を育成する

令和6年度 さっとGPT（教師の話は短くし、すぐに活動させてあげる）

- ・授業開始後、すぐにグループ、ペア、探究活動を行う
- ・教師の説明はできるだけ短くする

令和5年度 アタック25（よい授業とは学習活動が長い授業）

- ・最低でも25分以上の学習活動を取り入れる
- ・「学習活動」とは、「考える」「考えを書く」「学び合う」活動

【確認していること】

○良い授業とは

- 1 授業規律・学習規範が整っている
- 2 学習時間が長い
- 3 児童から「問い」が生まれる

○学習形態

低学年は「**コの字型**」の机、**ペア**活動を中心に学習を進める

中学年は「**グループ**（4人以下）」の形、グループ活動を中心に学習を進める

高学年は、**自己選択**での学び（自力 or 学び合い）を中心に学習を進める

*道徳、外国語活動、学級活動は「**向き合った形**」

○自力解決

自分一人で考える + 自分で教材や道具、支援者を選んで学ぶ

〈昨年度までに見られた姿〉

☆教師の説明が終わる前に、プリントの課題を進め始める子

☆課題が終わると、友達の家へ行き、確かめをしている子

☆「17回たす」の課題なのに、130回たして新たな発見をした子

☆九九で、 4×50 まで作った子

☆日本の政治を学習している際、韓国の政治を調べ始めた子

☆アサガオのお世話中に「水をあげないとどうなるんだろう？」と疑問を持った子

☆うちわで走る車を作る活動で、ヘリコプターを作って飛ばした子

☆友達に上手に説明する言葉を、ノートに書いていた子